地域づくりで協定

倉敷市と川崎学園 雇用創出など7項目

倉敷市と学校法人川崎学園（同市松島）は15日、医療・保健・福祉分野などで連携し、地域づくりを進めるための協定を結んだ。協定は、学園が運営する川崎医科大や川崎医療福祉大などが持つ専門知識を生かした地域振興▽学生が卒業後に定住できる雇用創出▽学生や卒業生が地域で活躍できる仕組みづくり―など7項目。

市役所で調印式があり、伊東香織市長と川崎誠治理事長が協定書に署名した。

市長は「医療、福祉系大学や病院を有する川崎学園は、地域の安心のよりどころ。協定は市民にとって大きな力になる」と述べた。

川崎理事長は「大学や病院にとって、日ごろ支えてもらっている地域への貢献は重要な使命」とした。

倉敷市が学校法人や大学と包括的な連携協定を結ぶのは初めて。（角南邦彦）

協定書を手に握手する伊東市長（左）と川崎理事長

2015年5月16日 山陽新聞朝刊 30ページ
(C)山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。